

## 第6期「北海道観光のくにつくり行動計画」(令和8年度~12年度)の概要 令和8年4月

策定趣旨：北海道観光のくにつくり条例に基づき、施策を総合的、計画的に推進するための基本的な計画  
位置づけ：北海道総合計画に沿って策定、推進する「特定分野別計画」

## 北海道観光を取り巻く情勢と現状・課題

## ◆北海道観光の現況

- 観光入込客数(実人数)
  - ・R6年度は4,964万人で、コロナ禍から回復傾向。その中で外国人客は大きく伸張し、R6年度は過去2番目の水準
- 宿泊客延数
  - ・R6年度はコロナ前を上回り過去最高となったが、道央圏に集中(62%)
  - ・四半期で比較すると、インバウンドの拡大により、第4四半期が大きく底上げ
  - 第1(4~6月)、第3四半期(10~12月)の誘客が課題
  - ・外国人客の国・地域別ではアジアが8割以上を占めており、中でも東アジア(1韓国、2台湾、3中国)が特に多い

## ○顕在化している様々な課題

- ・一部の地域では、過度の混雑やルール・マナー違反などの問題が顕在化

## ◆北海道観光の課題と対応方向

- ・地域偏在・季節偏在といった構造的な課題に加え、慢性的な人手不足、交通の利便性、過度な混雑やルール・マナー違反等の諸課題への対応、自然災害や様々なグローバル・リスクに直面しており、これまでの取組に加え宿泊税も活用し、こうした課題の解決及び、地域経済を支える観光関連産業の持続的な発展に向け、取り組んでいくことが必要

## 北海道観光のめざす姿と施策展開の方向性

## ◆めざす姿

## ○めざす姿を掲げる考え方

- ・北海道観光が持続的に発展していくためには、安全・安心の確保はもとより、地域や季節の特性を最大限に活かしたインバウンド需要の取込とともに、日本各地からの誘客が重要であり、さらには国内外から多くの観光客を惹きつける各地域の魅力や価値により、これまで北海道観光を支えていただいた道民の皆様の、地域への愛着や誇りの醸成しつつ、一層の道内旅行を促進するとともに、旅行者・観光業従事者、地域住民それぞれの満足度向上と相互理解を深めていくことが鍵。
- ・観光が全道各地域の幅広い産業の成長を牽引することにより、北海道観光の飛躍と持続的な発展を確かなものにし、日本そしてアジアを代表する特別な観光地として世界から選ばれる「観光立国北海道」をめざす。

地域偏在や季節偏在といった構造的な課題の  
対応・解決と北海道観光の潜在力の発揮

旅行者、観光業従事者、地域住民  
それぞれの満足度向上と相互の理解

めざす姿  
道民に愛され世界から選ばれる  
「観光立国北海道」

観光を通じた消費額の拡大による地域経済を支える  
観光関連産業の持続的な発展

## ◆施策展開の方向性

めざす姿の実現および重点目標の達成に向け、以下の5つの柱のもとで、それぞれの施策を総動員し、有機的に連携しながら推進

施策の柱	項目	展開の方向性
(1) 観光 コンテンツ	①観光マーケティングの強化	・データを活用した観光客の動態・消費の動向調査 ・地域の戦略策定と評価の仕組み構築の支援 など
	②高付加価値化の追求	・自然、食、歴史・文化・暮らしなどコンテンツの磨き上げ ・アウトドア・サイクリング・ガストロノミーなど 多様なツーリズムの展開 ・アドベンチャートラベルの推進 ・広域滞在エリアの形成 など
(2) 観光サービス 基盤	①DXの推進	・自動チェックイン機や翻訳機導入など宿泊・観光施設のDX推進 など
	②受入環境の構築	・ユニバーサル対応(施設設備のバリアフリー等) ・快適な観光地づくり(手ぶら観光や観光地美化等) など
(3) 観光インフラ	①人材の育成・確保	・基幹的な観光人材の育成・確保 ・将来の観光を担う人材の養成 など
	②移動利便性の向上	・空港機能の強化と航空ネットワークの充実・強化 ・鉄道など広域移動と二次交通の確保・充実 ・交通機関のシームレス化 など
	③新たな観光客の取込 方策の検討	・「北海道らしいIRコンセプト」の構築

施策の柱	項目	展開の方向性
(4) 安全・安心と 共生	①災害時の体制整備	・災害・気象情報の多言語情報発信、緊急時の対応マニュアル整備や施設におけるスタッフ教育 など
	②危機対応力の強化	・正確な情報発信など風評被害対策の迅速な実施 ・観光地への訪問意欲の喚起策の機動的な実施 など
	③顕在化している 諸課題への対応	・混雑分散に向けた観光資源の多様化 ・ルール・マナーの多言語による啓発 ・アウトドア活動等に係る安全に関する情報提供の強化 ・無許可営業の是正等、観光産業の健全性の確保 など
(5) 誘客活動と 情報発信	①戦略的な プロモーション	・市場特性や旅行嗜好などターゲットを絞り込んだ 多様な国・地域へのプロモーション ・多種多様なニーズに対応した観光コンテンツを生かした 道外客への誘客活動の展開 ・道民に対する道内の旅行意欲の喚起や旅行機会の創出 ・各都市の魅力や特性を活かしたMICE誘致の推進 など
	②効果的な情報発信	・デジタルメディアを活用した幅広いターゲットへの情報発信 など

## ◆目標指標

## ○KGI(重要目標達成指標)

計画の「めざす姿」の実現に向けた、達成状況を評価するための基本目標として、観光消費額の拡大、地域偏在や季節偏在といった本道観光の構造的な課題の解消、旅行者、観光業従事者、地域住民それぞれの満足度向上と相互の理解について、KGIを設定。

指標項目	算出方法など	目標値
観光消費額(*)	観光消費額単価×観光入込客数	27,000 億円
うち 道内客		9,440 億円
うち 道外客		7,200 億円
うち 外国人客		10,000 億円
宿泊客延数(全体)	国内客(道内・道外)+外国人客	5,400 万人泊
うち 道央圏以外の宿泊客延数	道北、道東での宿泊客延べ数	1,460 万人泊
うち 四半期毎の宿泊客延数	第一四半期、第三四半期の宿泊客延べ数	それぞれ 1,000 万人泊以上
旅行者満足度	「とても満足」の回答割合(道内、道外、外国人客)	いずれも 60 %
観光業従事者の満足度	観光業界での継続就労意向 「とてもそう思う」「そう思う」の割合	70 %
住民の観光に対する受け止め	とても満足・満足の割合(居住地・社会的・経済的満足度)	いずれも 80 %

(*) 観光消費額の内訳	現状値(2024年度)		目標値(2030年度)	
	観光消費額単価	観光入込客数	観光消費額単価	観光入込客数
道内客	6,361円	3,364万人	12,000円	3,700万人
道外客	34,331円	790万人	50,000円	1,000万人
外国人客	96,114円	516万人	120,000円	600万人
外国人客	171,954円	283万人	250,000円	400万人

観光消費額は、それぞれの「観光消費額単価×入込客数(実人数)」に、「道外客(日帰り)の消費額」と「道外旅行をする道内客の道内での消費額」を加えて算出。

※その他、次のKPI(重要業績評価指標)も設定  
旅行者の種々満足度、アウトドア・ATガイド数、道内空港利用者数、地方空港利用来道率、北海道新幹線の利用者数、クルーズ船の寄港回数、国際会議等の開催件数

## 計画の推進

## ◆関係者の行動指針と役割

・道民、観光事業者・団体、観光関連団体、北海道観光機構、行政機関、教育機関の行動指針と役割を設定

## ◆計画の推進体制

・道では、各振興局に設置する「地域推進本部」において、地域における課題や実情などを把握していくことを基に、振興局を含めた全庁横断的な「推進本部」により、各振興局・振興局が関係者と連携しながら施策を推進し、実効性を確保

## ◆計画の推進管理

・毎年度、各振興局に設置する「地域推進本部」で取組状況や目標指標や現状、課題などを整理し関係者間で共有の上、全庁横断的な「推進本部」で全道的な観点から宿泊税の活用も含む計画全体の推進状況と対応方向を取りまとめ、点検・評価を実施し、公表するとともに、計画の進捗や情勢の変化なども踏まえ必要に応じて見直し

